

鹿児島の地質23 種子島の地質と化石

地質担当 鈴木 敏之

種子島は、九州本土の最南端、佐多岬から南東50kmの海上に浮かぶ周囲約150km、面積約450km²の島です。最高海拔は約282mで、隣にそびえる屋久島（宮之浦岳1935m）とは対照的にかなり低く、全体的になだらかな段丘地形からなる島です。

種子島には、島の基盤をなす古第三紀中期の熊毛層群、新第三紀中新世の荃永層群、第四紀の増田層、長谷層、竹之川層およびローム層が分布しています。西之表市住吉形之山（増田層形之山部層）では、産出した魚の化石の一種がタネガシマニシンの名で報告されたり、その後の大規模な発掘調査でゾウ、シカ、エビ、カニ、二枚貝、巻貝など多くの化石が見つかったりして「形之山化石群」として有名になり、注目されました。

今回は2011年8月に種子島で資料収集を行い、確認できた化石を二つ紹介します。

ピカリヤ化石（中種子町犬城海岸）

・とげのある塔形をした巻貝の一種で、新生代の示準化石です。現生のウミニナに似ていますが絶滅種です。

トウキョウホタテガイ化石

（南種子町島間）

・扇形をした二枚貝の一種でホタテガイのなかまです。他の貝化石などと密集している様子を確認できました。



鹿児島の動物26 カタツムリに興味をもってみませんか？

動物担当 山田島崇文

陸上にすんでいる貝類を陸産貝類と呼びます。これは一般的にはカタツムリやマイマイと呼ばれる貝類を指しており、水中で生活していた巻貝の一部が陸上に進出してきたものです。そのため、肺で呼吸します。しかし、乾燥を嫌うので、湿ったところを選んで生活しています。

県内には、多くの陸産貝類が生息しています。例えば、雨が降ったときブロック塀などでよく見かけるウスカワマイマイ、落ち葉や朽ち木の下にはキセルガイなどが見られます。貝殻はもちませんが、ナメクジも陸産貝類で、巻貝の一種なのです。

さて、右写真はフランス料理で有名なエスカルゴです。これは、リングマイマイというカタツムリの料理なのです。食感



ウスカワマイマイ



キセルガイの一種



エスカルゴの調理例

がイカやタコに似ていて人気があり、世界的に養殖されています。日本には生息していませんが、立派な陸産貝類の一つです。

一方、今年7月、志布志市においてヘソカドケマイマイの生息が確認されました。このカタツムリは、これまで薩摩半島南部や大隅諸島、トカラ列島で確認されていました。本県のレッドデータブックでは、準絶滅危惧種に指定されています。ヘソの部分がかぶって角張っていて、周りがトゲトゲになっているのが特徴です。大隅半島ではこれまでいないと考えられていました。ヒトや栽培植物の行き来によって進入したのかもしれませんが。現在博物館ではこのカタツムリの情報を集めてい



ヘソカドケマイマイ



ヘソカドケマイマイのヘソ

ます。とげのあるカタツムリを見つけた方はご連絡ください。